



真剣な表情でモニターを見つめ、手を動かす生徒

松本市の松本秀峰中等教育学校医学生物部の10人はこのほど、同市の相澤病院の救命救急センター、シミュレーションセンターなどを見学し、腹腔（ふくくう）鏡手術などの模擬体験をした。

生徒は2班に分かれ、シミュレーションセンターを訪れた5人は、腹腔鏡手術の模擬体験で、縫合針を持つ道具、持針器を使ってプラスチックのリングをつかみ、ポールに1つずつ入れた。最初はなかなかつかず苦労していたが、

松本秀峰中等教育学校と相澤病院は今年2月、病院見学に関して提携。生徒はこれまでに4回、機器や設備を見学し、最先端の陽子線治療、がん治療などについて勉強。今後は、医薬品の保管管理方法や調剤、放射線技師の役割などを学ぶことを予定している。

相澤病院を見学 医療の実際知る

松本秀峰の生徒

徐々に慣れ、作業の時間が短縮。上嶋優太君（2年）は「思ったより難しくて驚いた。距

離感が分からなくて大変だった。将来は医師になりたいので、いい勉強になる」と話した。

他にバックバルブマスクを使つた人工呼吸の方法を学んだり、聴診器でぜんそくの狹さく音を聴いたりした。

松本秀峰中等教育学